

「被害を抑えるために」

愛知県 豊橋市立南陽中学校 2年 大竹 真葉^{おおたけ まな}

最近、雨による土砂災害が少なくないのは知っているだろうか。記録的大雨が続き、たくさんの被害や犠牲者がでている。

先日、静岡県熱海市を襲った豪雨。この豪雨の影響で土石流、崖崩れなどがおき、死者23人、行方不明者5人、約300人が避難生活を送っている。滝のように流れる泥水、えぐられた山肌、崩壊した建物、ここに本当に人が住んでいたのかと疑うくらい、ぐちゃぐちゃな様子だった。

なぜ豪雨で、これだけ大きな被害が出てしまったのか。勿論、この豪雨はすごかったが理由はそれだけではない。被害はもっと抑えられたはずだ。

では、どうすれば被害をもっと抑えられたのか。私はニュースでみた映像や仕事の関係で現場に行った父の話聞いて、よく考えてみた。

被害を抑えるために大切なことは、「防災マップ（ハザードマップ）の確認」「早めの行動」「コミュニケーション」の3つだと考えた。

まず「防災マップ（ハザードマップ）の確認」だ。防災マップとは、自然災害による被害を予測して、被害の予測、被害の範囲、避難場所などたくさんの情報が盛り込まれている地図だ。この地図を確認することによって身近に潜む危険に気付くことができる。だが、この地図を確認するだけでは、実際の場所の様子を確認することはできない。では、どうすることが一番よいのか。

例えば、家族と一緒に住んでいる地域を歩き、危険な場所を自分の目で確かめ、防災マップをつくるのはどうか。目で確かめることで、どんな被害がおきるか、自分がどれだけ危険な場所に住んでいるか理解できる。そして、防災マップを家族とつくることで避難経路を一緒に確認でき、アドバイスもできるからよいのではないか。

次に「早めの行動」だ。だが、ただ早く行動するだけでなく、先のことをよく考えて行動する必要がある。具体的な例を挙げるなら3つある。

一つ目は「家を建てる時」だ。父の情報によると、被害があった熱海市には、山の斜面に建っている家が多かったらしい。山の斜面に家が建っていると、土砂崩れや土石流の影響を受けやすいため、大変危険だ。そして、土地が低い所だと土地の高い所で降った雨が流れてきてしまう。だから、家を建てる時はそういった土地のことをよく考えた方がよいだろう。

二つ目は「準備を予めすること」だ。どのタイミングで土砂災害がおこるかは分からない。だからいつ避難しても大丈夫なように、水や食料品、ヘルメットなど他にも必要なものを準備しておくのがよいだろう。

三つ目は「早めの避難」だ。私は特にこれが大切だと思う。土砂災害で命を落としてしまう原因、それは「逃げ遅れ」が多いのだ。豪雨だと避難指示が出ることが多い。だが、実際に避難している人は少ないだろう。なぜこのようになるのかは、どんな状況の時にどんな警報がでるのか、何の警報の時に何をすればいいのか、などのしくみを理解していないから、避難をためらっている人が多いからだと思う。このような状況だと、本当に逃げなければいけない時に「逃げたくても逃げられない」ということになってしまい取り返しがつかなくなるだろう。

これらのことからどんな時でも、よく考えて早めに行動することはとても大切だ。

最後は「コミュニケーション」だ。土砂災害とは無関係のように思えるがそれは違う。コミュニケーションで土砂災害を防ぐことはできないが、大切な命を守り、助け合うことはできるだろう。

例えば避難する時に、「被害が出る前に避難しちゃいましょう。」だったり、お年寄りや体の不自由な方には、「今ならまだ安全ですよ。今のうちに一緒に避難しませんか？お手伝いしますよ。」と言ってみる。日頃からなら、「あそこは危ないから近づいちゃダメよ。」と言う。これだけで意識はだいぶ変わるし、近所の方々はみんな安心して避難し合えるのではないか。

「防災マップ（ハザードマップ）の確認」「早めの行動」「コミュニケーション」これらをすればきっと被害を抑えられ、命を救えるはずだ。今回の熱海市を襲った豪雨のように、いつか日本のど

令和3年度 「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 優秀賞（事務次官賞）

こかを豪雨が襲うだろう。一人では被害を抑えられない。だがたくさんの方が協力すれば抑えることができる。被害が起きてからでは遅い。

今までの豪雨で犠牲になった方々のためにできること、それは、今、私達にできることを全力で取り組むことではないか。